

学術3 / J A E D 本文

同協会は高等教育開発（大学における教授法の開発、カリキュラム開発、組織改革、教職員の能力開発等）のための専門家団体であり、平成二十一年九月に設立された。このたびは、教育改善の実践活動の促進・情報共有を図るための場として同フォーラムを開催した。

研究報告は、通常の学会と同様に学術調査に基づくもののほか、開発途上のFDセミナーやワークショップ等を発表し、参加者とブラッシュアップを行う「開発研究」の発表も行われる。このたびは、新任教員へのセミナーや職員が学生に指導する機会をSDに導入する方法について、他大学のFD担当者の支援について、学習内容を図解などで表すスグラフィック・シラバスの作成法等について報告された。

続いて、会長の川島啓二国立教育政策研究所高等教育研究部総括研究官が「転換期の大学教育とJ A E Dの課題」と題した講演を行った。川島氏はJ A E D設立の経緯や

考え方を説明し、「当協会が学士課程教育の構築のビジョンと現実のギャップを具体的に埋める手法の開発を行い、新しい高等教育文化の創造を提案していきたい」と意気込みを語った。

続いて、同協会の貴会会員である帝京大学、中部大学、文京学院大学、新潟医療福祉大学のFD活動や事例について、公開コンサルテーションが行われた。それぞれの大学が事例を紹介したのち、フロアの会員が提案や意見を述べた。

その後、レイトニュースアワーとして、「高等教育開発の国際的動向」と題して愛媛大学の佐藤浩章准教授が、「カナダの大学教授職」と題して帝京大学の土持ゲリー法一教授が演台に立った。佐藤氏はベルギーで行われた高等教育開発者の国際ネットワークである「国際教育開発連盟（I C E D）」の代表者会議への参加報告を発表するとともに、各国の高等教育開発の状況として、一般的に国家財政も厳しく取組が縮小傾向にあるが、同連

盟への加盟団体は増えていること等を報告した。土持氏はカナダで行った数大学の実態調査について報告。カナダの大学教授職資格の状況等を詳細に解説した。

最後にFD担当者の能力開発ワークショップとして立命館大学の沖裕貴教授による「受容的に聴く力ーイヌバラ法を通して」というスキルアップ的な企画が行われ、その後懇親会が行われ終了した。